



ココライン

運用状況のご報告

2015年7月27日

正会員，賛助会員のみなさま
そだちの樹をご支援いただいているみなさま
そだちの樹にかかわるすべてのみなさま



<http://sodachinoki.org/kokoline>

2015年4月16日にスタートしたそだちの樹の相談窓口「ココライン」は，開始から3か月を迎えました。この間の運用状況をご報告します。

利用件数

7月16日現在，電話又はメールによる相談件数は23件，本人との面談に至ったケースは5件，ウェブサイトへのアクセス件数は2,039件となっています。

相談件数とウェブサイトへのアクセス件数はおおむね予想していたとおりですが，本人との面談に至ったケースの数は予想を大きく上回っています。

相談件数

23件

(電話・メール)

面談件数

5件

ウェブサイトの
アクセス件数

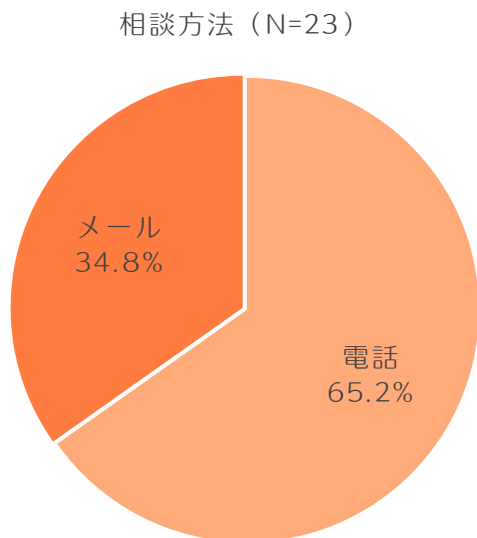
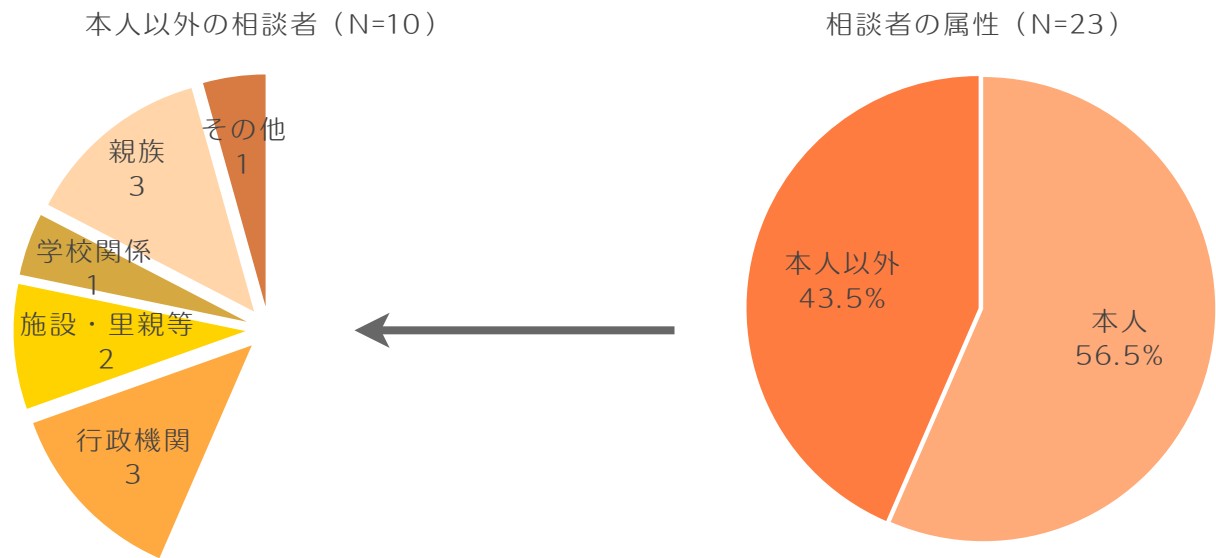
2,039件

相談傾向

相談者の属性

23件の相談のうち、悩みがある当事者本人からの相談は13件（56.5%）、本人以外からの相談は10件（43.5%）となっています。ここラインでは、対象としている若者たちに私たちの存在を知ってもらうために、悩みを持つ若者たちとつながりのある大人（児童相談所、各市区町村の子育て支援課、女性相談所、保護観察所、高校、大学、NPOなど）にカードを持ってもらう戦略をとっています。そうした中で本人からの相談が半数を上回ったことは、広報活動の成果が現れてきた可能性を感じさせます。

本人以外の相談者を見ても、さまざまな大人から相談が寄せられていることが分かります。



相談方法

相談方法は、電話の割合が多く、メールは8件（34.8%）にとどまっています。

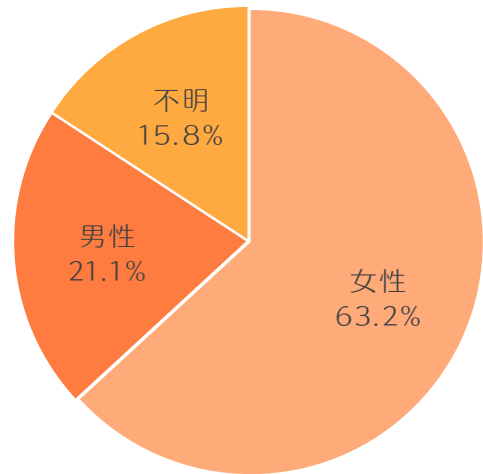
メール相談は、面談や具体的な支援につながるものは少数ですが、SOSを出しやすい相談方法として、今後も動向を見守っていきたいと考えています。

当事者の性別

相談の対象となっている当事者の性別は女性が多くなっています。

女性の割合が多い要因としては、そだちの樹が運営していた子どもシェルター「ここ」が入居の対象を女性に限定していたため、関係機関から、ここラインも女性のケースを中心に扱っていると受け止められている可能性や、男性が相談窓口を利用することが一般的に少ない可能性などが考えられますが、詳しい分析はできていません。

当事者の性別 (N=19)



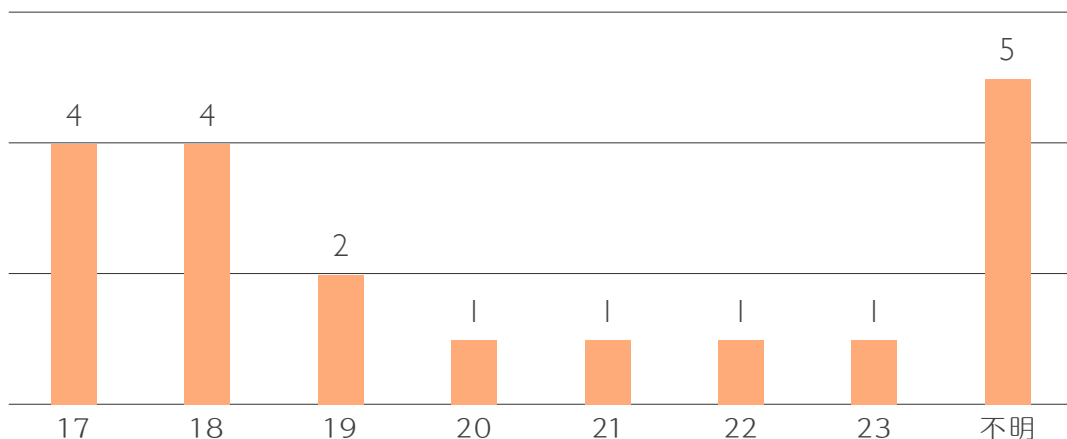
*相談のうち、当事者が同一であることが明らかでないものを除く。



当事者の年齢

当事者の年齢分布を見ると、割合としては10代が多くなっています(52.6%)が、20代の相談も少なくありません。20代の相談は面談に至るケースも多く、20代前半の若者たちの悩みを受け止める相談機関が十分に機能していない可能性を感じています。

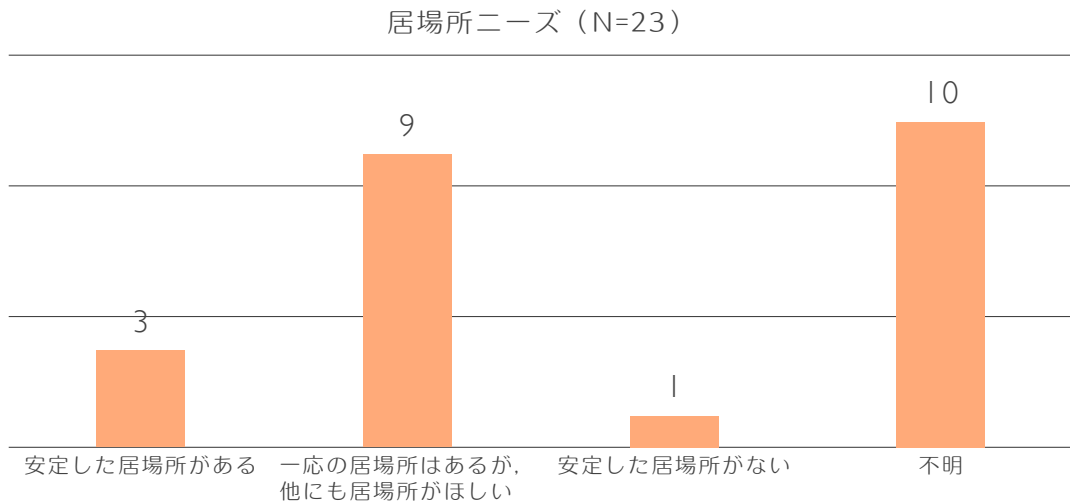
当事者の年齢 (N=19)



居場所ニーズ

ここラインでは、居場所のない、居場所がないと感じている若者たちのニーズを把握するために、独自に「居場所ニーズ」という指標を定めて、相談ケースのアセスメントを行っています（相談時に把握した情報に基づいて、相談担当者の判断で分類しています）。その結果は次のとおりです。

まだ十分な分析はできていませんが、一定数の若者たちが居場所を求めていることが分かります。



まとめ

まだ相談件数が少なく、若者のニーズが見えてくるまでには時間がかかりそうですが、これからもここラインを通じて、若者たちの動きを追っていきたいと思います。

今後もここラインへのご声援、よろしくお願い申し上げます。